

岩手の生協の今をお伝えする

岩手の生協

VOL.53 2020.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



第55期通常総会は全議案を満場一致で採択

緊急署名岩手の会で学習講演と今後の取り組みを確認

目標に向けラストスパート！ヒバクシャ署名のつどい

特集

岩手県生協連 第55期通常総会報告

～ 第9次中期計画決定「協同・助け合いの輪を広げて、誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりをすすめ、期待され信頼される生協をめざそう」～

■会員生協トピックス

- ・大船渡市役所職員生協
- ・岩手大学生協

■岩手県生協連トピックス

- ・ヒバクシャ署名岩手の会
「学習講演&ラストスパートのつどい」開催
- ・「改憲は許さない！」
緊急署名岩手の会全体会開催

岩手県生協連

第55期通常総会を開催しました

「第9次中期計画決定」「協同・助け合いの輪を広げて、誰もが健康で安心して暮らせる地域づくりをすすめる」期待され信頼される生協をめざそう」

6月25日、規模を縮小して代議員・理事・監事の30人が出席し、第55期（2020年度）通常総会を開催しました。総会では、「2019年度事業・決算報告」、今後5年間の方針を掲げた「第9次中期計画」、「2020年度事業計画・予算」など、5つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。



《第9次中期計画（2020～2024年度）でめざすもの》

- ① 組合員の共通の願いや地域社会の期待に応え、協同の輪、助け合いの輪を広げ「誰もが健康で安心して暮らせる地域づくり」「人にやさしい地域づくり」をすすめる。
- ② 「平和と人権」「福祉の充実と健康」「持続可能な地球環境や

地域社会」「安全安心な食・食料」を守り、次の世代に引き継ぐために、組合員、会員生協、諸団体の力をあわせる。

③ 県内の多様な生協事業をすすめる、組合員の生活を支えていく。岩手県生協連は、会員生協間の協同や連帯を強めるよう支援し、さらに行政や諸団体との関係を強化し、期待され信頼される生活協同組合になるよう役割を発揮する。

《今年度の取り組みの重点》

新型コロナウイルス感染が世界規模で拡大、先の見通せない状況が生まれている。日本や世界の感染者は増え続け、外出禁止や事業休業、イベント中止等が余儀なくされている。各生協は、感染防止策を取りながら事業継続に最大限の努力をしているが、今後も事業や社会的な運動への制約が続けば、生協も大きな影響を受け、不

況による解雇や倒産が増えるなど社会不安も高まる。貧困化がすすみ、格差や分断が今以上に広がる恐れもある。

生協は誰もが健康で安心して暮らせる地域社会、SDGsのめざす「誰も取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて引き続き生協事業・運動をすすめる、コロナ禍による影響に対して諸団体と連携し政府や行政に必要な救済措置や対応を求めていく。

困難な中だが、組合員、会員生協、協同組合や諸団体と工夫し合い、学習会やWEBでの配信も取り入れ、力をあわせ、20年度事業をすすめていく。

《みんなで取り組む重点課題》

- (1) 人にやさしい地域づくりや事業、復興支援、健康づくりを推進する。
- (2) 貧困や格差問題への対応をすすめる。

- (3) 平和・憲法・人権を守り、核兵器廃絶を求める。
- (4) 社会保障充実を求め、消費税をはじめ不公平税制や増税に反対する。
- (5) 灯油等の適正価格、安定供給を求める。
- (6) 食料・食の安全、農林漁業を守り、食料自給率向上にむけ取り組み。
- (7) 脱原発、再生可能エネルギーへの転換、温暖化防止の取り組みをすすめる。
- (8) 消費者行政の充実を求める。
- (9) ユニセフ活動を推進する。
- (10) 生協交流会（9月頃）、協同組合講座（12月頃）を開催する。
- (11) 会員生協の運動・事業・経営に役立つ県連の役割を強化する。
- (12) 行政、諸団体、協同組合との関係を強化する。
- (13) 県生協連や会員生協の活動を多くの県民やオピニオンリーダーに発信する。

《三〇発言》(要旨)

税や原発再稼働、種苗法等の新スタイルの学習や運動について

いわて生協 藤原真帆代議員



今年度は、「助け合い、支え合い、ともにつくるくらしの安心」をめざし、いわて生協の第9次中計最終年度として取り組みます。

消費税増税に加え、コロナ禍の影響などで厳しさを増すくらしを守る事業をすすめ、特に店舗事業改善で経営立て直しを図ります。

2020年はいわて生協誕生30周年、岩手に地域生協が誕生し50周年の記念の年。組合員を増やし利用を広げながら、くらしの願いを実現してきたことを確認し合い、生協やコープ商品の良さをさらに広げていきます。

隣県の女川原発再稼働については、他人事ではなく、再稼働を止めるためにできることをしたい。

また、種子法・種苗法改正も組合員の関心が高い。法改正は廃案になった訳ではなく、新品種育成者の権利を守り、苗の自家増殖を規制することは、日本の農業や消

費者にとって非常に大きな問題。

原発再稼働も種子法・種苗法改正も、いい面・悪い面の情報を集めながら学習していきたい。

新型コロナウイルス対策として様々な給付がされているが、それ以上の増税が今後あるのではないかな不安です。経済対策なら、所得税や消費税の減税でもいい。昨年10月の消費税増税がなければ、コロナ自粛での売り上げ減も乗り越えられた企業が多いのではないかな。必要な社会保障とは何か、消費税はこのままでいいのかな、学習とともに社会をよりよくする運動に取り組んでいきたいです。

新しい生活様式で集まるのが難しくなっているが、学習機会を希望する声は多い。集まらなくてもできる新スタイルの運動に取り組むべきではないか。県連のリーグシップに期待します。

経営の難しさ、授業の質について

盛岡大学生協 吉田知豊代議員



学生委員中心に、毎年10月の学園祭では健康安全まつりを実施し

ています。昨年度は医療生協に協力いただき、血管年齢測定等を行う予定だったが、台風の影響で学園祭が中止に。今年こそはと思っていたが、コロナの影響で開催できるか不透明です。

新型コロナウイルスの影響で3月から学生は構内立ち入り禁止に。例年授業開始に合わせて新入生を迎える準備をすすめているが、延期・再延期が続いた。5月から遠隔授業が始まったが、学生は大学に來ない状況で3・5月は食堂を閉店、購買店舗は時短営業に。6月から食堂も時短営業で再開したが、学生が來ない限り経営は厳しいです。

遠隔授業も、授業時間に合わせパソコンに向き合うものもあれば、先生が録画した授業を時間になつたら流すもの、好きな時間に録画した授業をみて課題を提出するなど、何種類もある。当大学のネットワーク環境が貧弱で、先生方も自宅からオンライン授業を行っていてもあり、先生方も大学になかなか來ない状況です。

学生は一日中アパートや自宅にこもる時間が長くなっており、どんな食生活を送っているのか非常に心配。6月末からは対面授業も始まったが、コロナ禍で事業・組合員活動を続けていくために、情

報交換しながら横のつながりを重要にしていきたいです。

自粛の中での健康づくり活動

盛岡医療生協 佐々木徳司代議員



コロナ自粛前の生協強化月間では、るるぶ(出かけ)・つながり・安心を結ぶ(の)末尾)をスローガンに、914軒の一斉訪問を実施。「安否確認ができた」「久しぶりに人と話した」など好印象を受けました。

健康チェックは、延べ1万2,569人が参加。街角や店舗等での活動が認められ、老人クラブや活動センター・公民館等からの依頼が多くなっています。

2020年度は、「健康をつくる・平和をつくる・いのち輝く社会をつくる」運動推進のために、T(楽しく) T(つながり) F(フレイル予防)を合言葉に、健康寿命を延ばし、健康な街づくりをしていきます。

組合員からは、自粛と委縮は違う、という声が多く出ている。3密を回避し、感染者ゼロを継続し

ながら活動を再開していきたい。

特に家に閉じこもりがちで、心身ともに弱り不安を募らせている高齢者を励ます「お元気ですか訪問」と、メリハリのある生活とフレイル予防のための「健康チャレンジ」を参加2千人を目標に取り組む。禁煙や過度の飲酒をやめるきっかけに、リモートワークでの太り気味解消など、日常の課題をご家族みんなで克服しましょう。

また、川久保病院で発熱外来を開設したので、ぜひご利用ください。コロナに負けず、元気に生活していきましょう。

地域上映活動や文化事業継続危機みやこ映画生協 櫛桁一則代議員



昨年度は、被災地上映会を継続し、内陸の災害公営住宅でも実施。医療生協とコラボし、上映後の健康体操も行い喜ばれました。

映画が産業化した大正時代から戦争があっても映写機は止まることはなかったが、コロナの影響は大きく、全国での映画館閉館は史上初。私たちも上映会ができない

状況でした。ドイツでは、文化大臣が「文化芸術は日常不可欠なだけでなく生命維持に必要」と訴え、手厚く補助金や予算を割いている。映画生協としても、演劇、音楽の団体とともに国に補償を働きかけています。

蔵を改装して映画館にした「シネマ・デ・アエル」で、児玉房子さんの遠野を舞台にしたガラス絵を題材にした「どこかに美しい村はないか」の上映は、コロナの影響で各地で延期になり宮古が全国初に。ということとは宮古が世界初、宇宙初の上映会になった笑。今秋には、岩手県ユニセフ協会ともコラボした上映会も企画しています。

地産地消や共済の取り組み

岩手大学生協 塚原英明代議員



食育・地産地消の取り組みとして、毎年産地見学会を学生委員会が中心となって行っているが、奥州市での田植え・稲刈りのほかに、昨年度は湯田牛乳の工場見学も実施しました。また、オリジナルの米や牛乳を使ったりゾットを学園

祭で378食販売。その売り上げは、大学の勉強援助制度を紹介しながら、その制度に全額寄付しました。

2020年度から学生総合共済事業が地域生協と共同引受となることを受け、4年生や大学院生、卒業生を対象に「羽ばたけフェア」も開催しました。いわて生協に協力いただき、コープ共済を紹介。卒業による出資金返還の案内にコープ共済の案内も入れ、卒業後に切れてしまう学生共済から引き続き保障が受けられ、社会人になってもスムーズに安心が続くようにと取り組みました。

大学は5月からオンライン講義、6月からサークル活動も始まったが、生協の事業に影響が出ています。食堂利用も前年の半分、食品利用も減っており、前年の3割ダウン。コロナ禍に負けない事業や経営のやり方を考えていかなければいけません。

学生委員会では、ツイッターに質問箱をつくり650件の問い合わせに対応。生協があつてよかった、という声が出ています。新入生も加入し、協同組合について後輩に継承する流れができています。コロナに負けない生協づくりをすすめていきたいです。

《ご意見への理事会からの答弁》

吉田敏恵専務理事



発言が提案への賛成意見だったため、個別の回答は行わないが、各会員生協からコロナウイルスで見えてきた問題や不安が出され、本当に過去に例のない困難な状況や、深刻さが伝わりました。

日々状況が変わる中だが、協力や発信、各方面への要請など、できることがないか理事会の中で話し合つてすすめていきます。



大船渡市役所職員生活協同組合

大船渡市役所生協は、組合員506名、職員3名の小さな職域生協です。

売店通路に面したワゴンに、日替わりで地元業者から仕入れた焼きたてパンやシフォンケーキ、サンドイッチを並べて販売し好評をいただいておりますが、さらに皆様に喜ばれる店舗を目指して、昨年組合員全員に生協への満足度や、取扱商品への要望などのアンケートを実施。ダイレクトにご意見をいただけたことで、客観的に当店を見直すことができました。

それをもとに、新規の地元パン店のパンと、洋食店のお弁当とサラダの販売を開始したところ、昼食時間に行列ができ10分で完売するなど、人気商品となっております。

また、一昨年より当店職員がオリジナルでデザインしたポロシャツや手ぬぐい、トートバッグ、エコバックも販売開始。今年の第3弾のデザイン

ンも大人気です。

今年はコロナウイルスの影響でイベントや会議が無く、飲料等の売上が減っておりますが、マスクや手指消毒剤などの衛生商品を少しずつでも仕入れて販売できたことで、あまり来店のなかった組合員にも足を運んでいただけて、当店へ関心を持ってもらっている機会となりました。

小さい店舗だからこそ工夫を絶やさず、また来たいと思える店づくりを心がけて、笑顔を保ちたいと思います。



2019年度実績 事業高 42,787 千円

岩手大学生生活協同組合

今でも収まることがない新型コロナウイルス。例年であれば、新学期には岩手大学生協のことを学ぶオリエンテーションやフレンドサポート、履修について学ぶ履修相談会を通して、新入生が大学生活を安心してスタートできるような活動を岩手大学生協学生委員会は行っていました。

しかし新型コロナウイルスの影響で開催ができず、新入生は不安を多く抱えて大学生活をスタートしました。

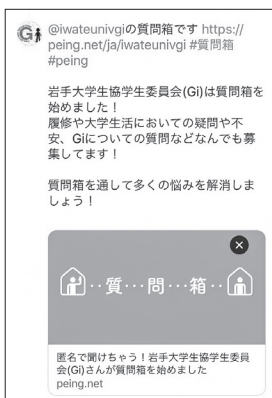
そんな新入生組合員に向けて、少しでも大学生活を安心して過ごしてほしい、これからの大学生活が少しでも不安のないものになってほしいという学生委員会の思いから、ツイッター上で「#22日後に充実した岩大生になるための豆知識」の発信と質

問箱の設置を行いました。

質問箱は4月12日から6月30日まで行い、履修について、授業の単位のこと、大学生活についてなどを中心に700件近い質問をいただきました。

この質問箱を設置したことで新入生組合員が何に困っているかを知り解決することができたと同時に、新型コロナウイルスの影響で、対面できなかったことをSNSで発信することができたのは、これから新しい取り組みをしていくうえでとても良い機会になりました。

今後、事態が終息して通常授業が開始された後も、積極的にSNSを活用していきたいと思っています。



2019年度実績
組合員数 6,915人
事業高 1,163,685 千円

■ヒバクシャ署名ラストスパートへ 岩手の会でつどい開催

岩手県生協連も幹事団体を務める「ヒバクシャ国際署名をすすめる岩手の会」（賛同66団体）では、9月の署名締め切りに向け、学習講演＆ラストスパートのつどいを開催しました。

学習講演では、「ヒバクシャ国際署名」キャンペーンをすすめる慶應義塾大学2年の高橋悠太さんが、「出会いに生かされて」と題して講演。ボランティア活動やさまざまな人との出会いを通じた経験や、国連本部や世界各地の大使館訪問、対話カフェ開催など、積極的な取り組みを語りました。

そして、被爆者の「もう誰にも自分と同じ思いをさせてはならない」という思いを受け止め、当事者から学び、対話から他者の価値観に触れて仲間を見つけ励まし合いながら、「自分の得意な分野からアクションを起こそう」「参加者から主催者へ移り変わろう」と呼びかけ。「署名や宣伝行動など立つことに意味がある。持続可能な平和活動をしていこう」と訴えました。

新型コロナウイルスにより、さまざまな運動が制限されていますが、それに負けずにできる取り組み



55人が参加。「コロナ禍だができる行動を考えたい」「行動しましょう！という言葉が胸に刺さった。1筆でも多く集める」などの感想が出されました。



みをしていこうと、今回はオンラインでの講演を実施。初めての試みでしたが、トラブルなくすみ、高橋悠太さんの「世界から核兵器をなくそう」という思いが参加者に伝わり、大変好評でした。

また、延期になったNPT再検討会議に派遣予定だった、いわて生協、民医連、県内の大学生や高校生の4人が核兵器廃絶や平和への思いを語る、リリーススピーチも実施。参加者に「若い世代がもっと政治や社会について考え行動しないといけない」「私たちの運動は微力だが無力ではない」などと訴え、会場全体で署名回収のラストスパートに向けた思いを新たにしました。

岩手の署名は、7月末時点で19万2千筆まで到達しました。なんとしても20万筆は達成しよう、と、職場や声をかけていない団体への呼びかけを強めていきます。

■改憲発議は許さない！ 緊急署名岩手の会全体会開催

岩手県生協連も幹事団体を務める「安倍9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会」（略称：緊急署名岩手の会）は、7月10日に全体会を開催、65人が参加しました。



「憲法を変えずに憲法を生かそう」と小野寺氏

当日は、「桜を見る会」を巡り、安倍晋三首相の後援会が前日に開いた「前夜祭」は公選法などに違反するとして告発した、「『桜を見る会』を追及する法律家の会」事務局長、小野寺義象^{（むねまさ）}弁護士らの学習講演も実施。改めて、安倍政権が政治や税金、情報を私物化してきたことを確認しました。小野寺さんは、政治腐敗に対し、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を保障する25条など憲法を生かす政治を求め、声をあげ署名を呼びかけていこう、と訴えました。

岩手の会でも、引き続き「改憲発議に反対する全国緊急署名」の呼びかけや月1回のアピール行進実施のほか、県内各地での街頭宣伝行動支援やミニ学習会開催などを行い、世論を高めようと確認しました。